

風雪山脈
山野愛子物語



風雪山脈

山野愛子物語

川内康範 著

アルプス版

<著者略歴>

日本文芸家協会会員
「生きる葦」「かくて愛
と自由を」「日本の壁」
「誰よりも君を愛す」



風雪山脈 山野愛子物語

川内康範 ¥ 300

昭和38年3月10日 初版発行

発行者 松本三郎

発行所 株式会社 アルプス

本社 東京都千代田区大手町2-2(野村ビル)

TEL(231)3959・振替東京4593

支社 大阪市北区阪急前(航空ビル)

TEL(361)0482・振替大阪2448

印刷 福神製本印刷・信和印刷

乱丁落丁はお取替え致します

風雪山脈

山野愛子物語

目次

序章	………	五
第一章	………	七
第二章	………	五
第三章	………	五
第四章	………	三

第五章	……	一九五
第六章	……	二二
終章	……	二五
あとがき	……	二七

装
幀
阪
口
茂
雄

風雪山脈

山野愛子物語

序

章

アメリカに学ぶわが子にねがうなり
時々かえれ母の夢路に

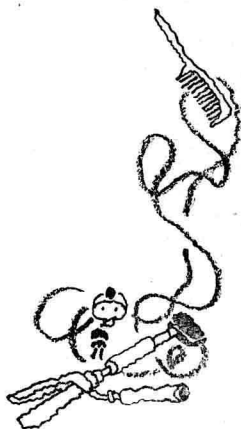
正義さん

夢は便利ですね。昨夜、お母ちゃまは、サンフランシスコの空港であなたに迎えられた夢を見ました。あれから、もう五年も経つのに、まるでつい先日のことのように、私が世界一周の旅に出て、ハワイからアメリカ本土へ飛んだ日のことがまざまざと想い出されます。

「私の息子」

序

私はあなたに迎えられて力強い腕に抱きかかえられながら、日本を出発する時に、あ



あも云おう、こうも云おう……と考えていたことを、何ひとつ口には出せず、ただ胸を熱くして母のしあわせに酔っておりました。その時の感激をまた夢に見たのです。

お母ちゃまはナニワ節だから——とあなたはわらうかもしれないけど、どこの母親もみんなそういうナミダの袋をもっているものなのです。

お父ちゃまは、だから母親のことを「おふくろさん」って云うのだと洒落をとばしておりますが、結構、そのお父ちゃまだって、あなたたち子供のことを、お腹の中では私以上に心配しているのです。

ナミダを見せずに泣く男。

それがお父ちゃまかもしれません。

さて、夢を見て急にこの手紙を書いたわけではありませんが、どうしても報らせておかなければならないことが出来ました。いやなことではありません。あなたもきつとよるこんでくれることです。実はこの三月に、桃の季節にふさわしく、私とお父ちゃまの胸像が、代々木の校庭に飾られることになったのです。胸像を自分の学校の庭にしつらえるなんて、とてもおもわゆくて出来ることではないのですが、これには断りきれないわけがあります。

お母ちゃまは涙ぐみました。

三年も前から、卒業生の代表者たちが、こっそり胸像建立の計画を立てていたのです。無論、私もお父ちゃまも寝耳に水でした。再三にわたってお断りしましたが、どうしても聞き入れてくれないばかりか、自分たちの夢なのだから……と、涙を見せる方も出るしまつに、私たち夫婦はつよく胸をうたれました。

生徒たちは、美容の修業をしながらも、心の美しさに磨きをかけていたのでしょう。

「快くいただく。子供からの贈物と同じだ」

お父ちゃまはコトバ短かにおっしゃいました。私が目頭を熱くしたのはこの時でした。あなたも知っているでしょうが、生徒たちのほとんどの人は、ありあまるお金を無駄に使うという身分ではないのです。その人たちが、お金を出し合って私たちのために胸像をつくって下さるというのはよくせきのことです。しかも、制作者が、彫刻界の元老として名高い朝倉文夫先生であると聞かされては感激するのが当然でしょう。

お母ちゃまは、あなたたち六人の子供の他に、こんなにも心の豊かな生徒子供をたくさんもてたことを誇りに思います。

神さまは、やはり、この世のどこかにいらっしゃるようです。しかも、朝倉先生は、

八十歳の御高齢なのです。その老躯に鞭打って制作をおひきうけ下さった御親切に対しても、私たちはこれからの人生を社会のために役立たせたいと願わずにいられません。そうです。私もお父ちゃまも、もうだいぶくたびれてはいるけど、胸像の飾られる日を記念して、また新しい人生への出発をするつもりです。

つい最近のこと、お母ちゃまはともよいコトバをおぼえました。あなたも知ってるでしょう、銀座にアマンドという洋菓子と喫茶の店を出していられるタキハラケンジという方が、ある雑誌に、「まことごころ」と題して、こんな詩を書いていました。

菓子を売るのは

誰でも出来る

紅茶を売るのは

誰にでも出来る

ハへえーいらっしゃい毎度有難うV

誰でも出来ることで

誰にでも出来ないことは

まことごころを忘れじの歌

その一節はこうなんだ

本日誕生 本日開店

正義さん、わかりますか。

お母ちゃまが注目したのは、本日誕生、本日開店の一節です。

私もお父ちゃまも、コトバはちがうけれど、いつも裸の気持ちで人生を戦ってきました。

憂きことのなこの上につもれかし

限りある身のちから試さん

この歌は、お父ちゃまの好きな西行法師の作られたものです。新仮名を使って書きましたが、本当は、なのおおは「ほ」試さんのんは「む」なのですが、形式はどちらでもいいのです。大切なのは、この歌にこめられた精神を、お父ちゃまが日頃実践なされているということです。

序 章

あなたは、いまロスアンゼルスで、お母ちゃまの代理として美容学校の経営を見なが

ら、そのかたわら保険のセールスマンもやっているわけですから、私が何を云わんとしているかはわかることと思います。どうぞ、いつまでもわが身のちからを試すつもりでがんばって下さい。遠い外国に、ひとりぼっちでいると、つらいこと、悲しいことが山ほどあるでしょう。でも、その苦しみに耐えて、たとえ無駄だと思われることでも、けっして投げださずに、バカにしないでがんばって下さい。この世の中というものは、そのバカを積み重ねて行くことによって、はじめて人間の価値が生れるのだと思って下さい。久しぶりに、なんだかお説教じみたことを書きましたが、これもお母ちゃまのナニワ節だと思ってがまんして下さい。もっとも、半分は、お他人の受け売りみたいなものですが、何しろお母ちゃまは、あなたも知ってるように、生れは糸屋の娘で、親に学問がないばかりか、小学校しか出てないのですから、よいことは、なんでももらって身につけるしか、自分を高める術を知らないのです。

わるいことかな？

いえ、そんな筈はない。お母ちゃまはいつも、お他人を自分の鏡として生きてきたのですからね。いってみれば、いつも手さぐりで一步一步こまでどうやら辿りついたのです。だから、いつでも本日誕生の気持ちを忘れないのかもしれないかもしれません。

あなたも、お他人のいいところはどしどし自分のものになさい。そして、その徳をお他人にもわけて上げられるようになって欲しいものです。アメリカの中の日本人として自分の祖国に恥ない人になることを祈ります。

私はこれまで、あなたも知っているように、いろいろと自分のことを新聞や雑誌に書いてきました。世界一周を記念しての本も出しました。けれどもそれは、ほとんど、美容師としてのお母ちゃま、ヤマノアイコの外観をつたえるにすぎませんでした。誰も、私の本当の、赤裸な人間としての歴史を知りません。

そうです、あなたでさえ、いや、弟の凱章、彰英、堯章、景章、博敏の、どの子供も知りません。ましてや、世間は、お父ちゃまを、カミユイの亭主とのみ考え、ひどい方は、まるでお母ちゃまの影のようにさえ思っておるようです。

あなたたち子供も、はじめは、お父ちゃまのことを、私のおかげで光っていると考えているところがありました。無理ありません。こちらが知らしめなかったのですから、ましてやお他人が知るわけではないでしょう。

「それもいいさ。その必要はあるまい。俺はがんこ親父でいいよ」
お父ちゃまは、あなたたちから、とても嫌われたことがありました。しつげが厳しす

ぎたからでしょう。それであなたなぞは、渡米をする時に、「お母ちゃま行って来ます」と幾度も云ったけれど、なかなかお父ちゃまの名を呼ぼうとはしませんでした。

「バカにしてやがる。俺はまるで継父あつかいだ」

お父ちゃまはふくれて私を睨みつけました。

「お前がいつもワイロを使うからだ」

冗談半分にそんなことも云ったものでした。そのあとで、あなたからお父ちゃま有難う——と云われたとたんに、だらしなくニヤニヤして、おい、正義の小使銭は大丈夫かな、なんて小声で云うのですから他愛がないのです。

正義さん、わかりますね。

夫婦というものは、親子と同じに、形影相抱くが如くはなれがたい絆で結ばれているものなのです。私があつて、お父ちゃまがある。お父ちゃまがあつて私がある。そのどちらでもあつて、どちらでもない——というのが真実なのです。

そこで、私は考えました。

今度の胸像建立を記念して、私とお父ちゃまの歩いて来た道を、あなたたちに知って貰おうと。人間には、自分の墓碑名を心に刻みこむ時機というものがあるとか云います。